

マツゲン箕島 悲願へあと一歩

強豪と接戦 大きな拍手

第45回社会人野球日本選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)で、マツゲン箕島硬式野球部は29日、トヨタ自動車(愛知)との初戦を迎えた。強豪相手に堅実な守備で接戦に持ち込

社会人野球 日本選手権

1回戦

んだものの、打線が点を奪えずに惜敗。悲願の初戦突破はならなかった。スタンドからは、企業チーム相手に互角の戦いをみせた選手たちに温かい拍手が送られた。

【後藤奈緒】

マツゲン箕島硬式野球部

000000000000
0100000000X1

トヨタ自動車

一新されたユニホームでの初めての公式戦。スタンドには有田市役所職員や地域住民による応援団、スーパ

ー「松源」の社員ら1万000人以上が応援に駆けつけた。マツゲン箕島硬式野球部は一回、先頭打者の黒岩拓馬選手(24)が幸先良く中前打を放

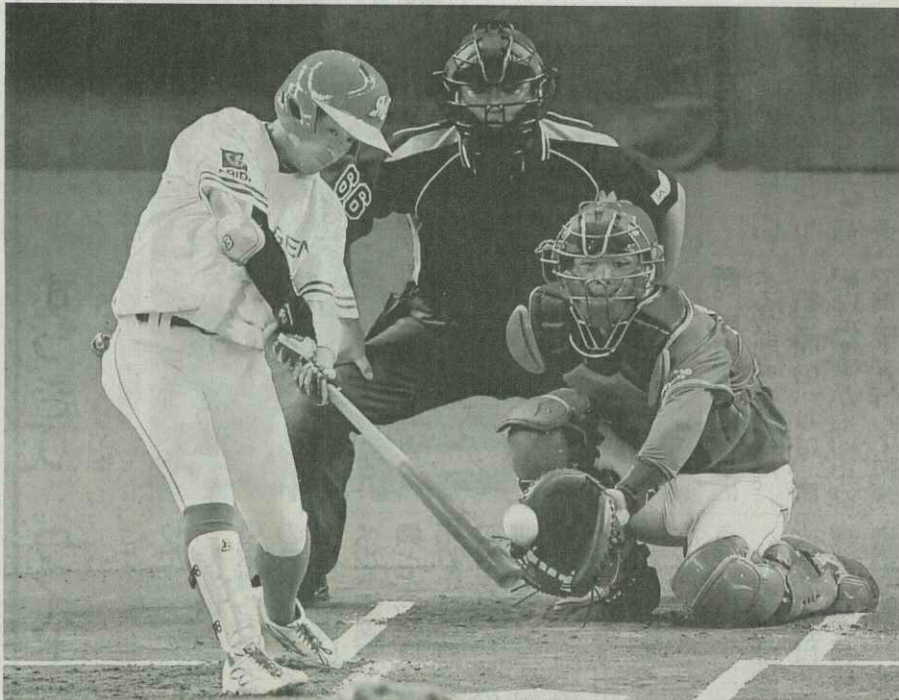
ち、スタンドを沸かせてピンチを招くが、先発の黒岩選手(25)が後続をピンシャリと抑え、追加点を許さない。その後は相手に二塁を踏ませない快投をみせ、味方の反撃を待った。和田投手の母ゆかりさん(55)は「悔いの残らないように一生懸命投げきてほしい」と見守った。

1点を追う七回表、マツゲンの先頭打者は4番岸翔太選手(27)が二塁手へのきわどい打球に、一塁へ頭から滑り込んだ。判定はセー

は奪えず、迎えた最終回は2死一塁で再び打席は岸選手。本塁打が出れば逆転の場面で、右翼に大きく上がった打球は、相手選手のグラブに納まった。



七回表、岸翔太選手の安打を喜ぶスタンドの観客ら



【マツゲン箕島-トヨタ自動車】一回表マツゲン箕島無死、黒岩が中前打を放つ
二京セラドーム大阪で、山田尚弘撮影



岸翔太選手(27)

この日は27歳の誕生日、なんとかしたい」と打席に立って野球人生最後の日となった。

九回表、二死一塁で最後の打席が回って来た。スコムメートが打席を回してくアは0-1。長打が出れば良かった。良かったな」と見守り同点にできる場面で、一

充実の野球人生に幕

球を打ち上げて右翼フライ。「これで最後だと思っ

悔いがないかと言えはうそになる。でも、「仕事をしながらの練習はきつかったけど、このチームでの5年間は一昨日が楽しくて、貴重な体験だった。充実した野球人生だった。そう振り返り、バットを置いた。

試合後は涙がにじんだ。悔いがないかと言えはうそになる。でも、「仕事をしながらの練習はきつかったけど、このチームでの5年間は一昨日が楽しくて、貴重な体験だった。充実した野球人生だった。そう振り返り、バットを置いた。